

特集の取材で公園へ。わたしも子どものころ大型遊具でよく遊びましたが、久しぶりに見た大型遊具には迫力を感じました。しかも、今回遊んでくれたのはわたしが遊んでいた年齢より小さい子ども。取材より子どもがけがしないか気に取られ、引率の先生に尋ねると「大丈夫ですよ」と笑顔で一言。その言葉どおり、子どもは自分の体力に合った遊び方や、友だちと仲良く遊ぶにはルールや順番を守ることが大事だということをきちんと理解し、伸び伸びと遊んでいました。改めて、外で遊ぶことは子どもの健やかな成長に作用するのだと実感。ご協力いただいた市立幼稚園・保育所の皆さん、ありがとうございました。(H)



ヘルシークッキングコンテスト 学生部門 アイデア賞

元気な朝ごはんレシピ

## ヘルシートースト!!

●考えていただいた人  
千北龍太郎さん  
(愛宕中学校1年・当時)

●ワンポイント  
簡単にヘルシーにということで、具材をいためて、食べやすいように食パンにのせました。

材料・4人分

豆腐	1/3丁
水煮大豆	100g
オクラ	4本
ベーコン	100g
油	小さじ1
味噌	40g
砂糖	少々
塩・コショウ	少々
食パン	4枚
マーガリン	小さじ4
スライスチーズ	4枚

作り方

- ①フライパンに油を熱し、小さく切ったベーコンとオクラ、水煮大豆、サイコロ状に切った豆腐を順番に入れていためる。
- ②①を味噌で味付けし、好みで砂糖、塩・コショウで味を整える。
- ③食パンにマーガリンを塗り、②をのせ、その上にスライスチーズをのせてオーブントースターで焼く。

●1人分の栄養価  
熱量447kcal、たんぱく質18.6g、脂質25.8g、塩分2.9g

市長日記



皇太子さまと佐世保こま

7月16日、「第45回献血運動推進全国大会」が皇太子さまご臨席の下、アルカスSASEBOで開催されました。

皇太子さまは前日の午後に三川内焼美術館を訪れ、三川内焼の伝統技法による繊細優美で精巧緻密な作品に見入っておられました。ハウステンボスに宿泊された皇太子さまは翌日、太陽電池で動くソーラーシップに乗って、運河からハウステンボスを視察され、大変感嘆された様子でありました。

この日は光栄なことに、皇太子さまを囲み、江利川厚生労働省事務次官、近衛日本赤十字社長、金子県知事、末吉県議会議長、浦市議会議長などの皆さんと一緒に昼食をとらせていただきました。

昼食後の懇談の席で、「佐世保こま」のことが話題になり、皇太子さまが「わたしは幼少のころ、皇居で佐世保こまを回して遊んでいました。今もそのこまを大切に持っていますが、当時、何か関わりがあったのでしょうか」と話されました。



昼食会の後、「佐世保独楽本舗」に問い合わせたところ、昭和24年に昭和天皇・皇后陛下が本市へ訪問されたとき、献上品として佐世保こまを献上したことが分かりました。アルカスSASEBOでお見送りをする際、そのことを報告したところ、皇太子さまは納得された様子で、お礼の言葉を述べられました。

佐世保市長 朝長 則男



三川内焼を鑑賞される皇太子さま



見送りの子どもに声を掛けられる皇太子さま



献血者の三枝(みえだ)利恵子さんに声を掛けられる皇太子さま。献血大会では会場を訪れた約2,000人の参加者に「急速な少子高齢化社会を迎え、若い世代の献血への理解と協力が求められています。長崎での大会を機に献血推進運動の輪が広がっていくことを希望します」と述べられました。



船でハウステンボスを視察される皇太子さま



鎮守大明神の石祠には、宝暦十三

江戸時代の佐世保村は、早岐浦の地頭と言われた富田家の三代目忠豊が佐世保浦にきて商家を興し、四代目忠富が享保十七(一七三七)年に酒屋株を得て、酒造業を興していました。浦とは都市的要素を備えた地区のことで、佐世保川河口から赤崎にかけて、廻船、漁業などかなりの密集地だったとみられます。

歴史散歩



第530回

鎮守大明神の石祠(御船町)

御船町バス停近くから、鵜渡越に登る車道の中ほどに西国三十三観音霊場巡りの石仏が三基置かれ、そばに「鎮守大明神」とかかれた石祠三基が合祀されています。

(二七六三)年の年号と、「奉建立保古良」神主町田斎宮と書かれています。「村の鎮守の神様の今日はめでたい御祭日」と唱歌「村祭」に歌われているとおり、五穀豊穡や疫病退散など、四季折々に村人がこぞって祈念し、お祭りをする村民の心の支えだったのが鎮守大明神でした。

教法寺を中心とする佐世保浦と、谷郷一帯の武士が住む行政地区、そして水利を中心に田畑が広がる農業地帯、その中に点在する農家、あちこちに瓦屋根のお寺や神社と、佐世保はいかにもまとまりの良い村の風景だったことがうかがえます。

明治十九(一八八六)年の海軍軍港建設は、その状況を一変させました。初代鎮守府司令長官となる赤松則良は、万延元(一八六〇)年に十九歳で咸臨丸に乗り組み渡米。さらに二十一歳でオランダ留学したエリートで、豊富な欧米の知識を佐世保軍港建設に活用しました。



土砂崩れで大規模断水

7月27日、瀬戸越町の大規模な落石により水道管が破損する事故が発生し、市西部地域の約17,500世帯(約43,200人)に水道の供給が全くできないという事態に陥りました。前例のない事態に、市では直ちに対策本部を設置。関係機関に協力を要請し、給水車による給水活動を実施しました。復旧作業は29日に完了し、8月1日午前中に断水地域全域での給水を再開しました。



陸上・海上自衛隊、米海軍佐世保基地、県内外の11の水道事業者の皆さまによる給水活動や、佐世保管工事協同組合からの断水対策、各方面からの飲料水の寄贈、地域の皆さまによる敷地やトイレの提供など、断水期間中に多大なご支援とご協力をいただきました皆さまに心から感謝し、お礼を申し上げます。